

大支援研ニュース

特別支援教育

平成25年10月3日発行
大阪府支援教育研究会
会長 中島 智子
(松原市立河合小学校長)

ホームページで
お知らせが
ある場合があり
ます

<http://daishienken.visithp.com/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

jimukyoku2009@daishienken.visithp.com

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

◇平成25年度の役員総会の予定

役員総会（役員の方はご予約願います。）

第3回 日時：平成26年1月21日(火) 午後3時～5時 : たかつガーデン 8階 たかつ(西)

夏季講習会報告 くわしくは別紙報告記事 アンケートまとめをご覧ください。

平成25年8月5日(月) たかつガーデン

伊丹 昌一氏(梅花女子大学) 内藤 壽氏・松永 榮一氏・朝井 翔二氏(象の会)

午前130名、午後50名の定員が早い時期にいっぱいとなり、参加できず残念という方が多くおられたこと、お詫び申し上げます。また、午後には、象の会の皆様に教材制作の実技研修を行っていただきました。長年お世話になりました3人の講師の方に、最後のお願いという形で実現した研修でした。こちらも前後半各45名の定員いっぱいの参加で好評の内におこなうことができました。(→別紙報告記事)

施設見学会報告 くわしくは別紙報告をご覧ください。

平成25年8月22日(木)ダイキン工業の特例子会社である『(株)ダイキンサンライズ摂津』を見学させていただきました。大企業には、特例子会社を設立しておられるところが多々ありますが、ダイキンサンライズ摂津では、精神障がい者の方の雇用にも力を入れているという印象を受けました。当日は、会社概要の説明、会社紹介のビデオを見た後、実際に職場を見学させていただきました。(→報告記事)

ICT活用プロジェクトの報告はお待ちください。

冬季研修会のご案内 一次案内添付

日時 平成26年1月25日(土) 午前10時半～午後4時 場所 大阪府教育センター

内容 午前 全体会(講演) 午後 テーマ別講座

(くわしくは11月下旬発行予定の二次案内をご覧ください。)

2013年 夏季研修会 報告

8月5日、たかつガーデンで夏季研修会を行いました。午前は、全体会という形で、伊丹昌一先生にご講演をしていただき、午後は演習という形で、より深い内容についてお話しいただきました。

午前130名、午後50名の定員が早い時期にいっぱいとなり、参加できず残念という方が多くおられたこと、お詫び申し上げます。

また、午後には、象の会の皆様に教材制作の実技研修を行っていただきました。長年お世話になりました3人の講師の方に、最後のお願いという形で実現した研修でした。こちらも前後半各45名の定員いっぱいの参加で好評の内におこなうことができました。

全体会

「愛着に課題のある子の理解と支援」

講師 伊丹 昌一氏

(梅花女子大学心理こども学部)

「愛着に課題のある子の理解と支援」ということでお話をいただきました。最初に、障がい名が何であるかよりも、その子が困っている事に対して支援するということが大切である、ということをお話されました。

『反応性愛着形成不全 (RAD)』は、安楽・刺激および愛着に対する子どもの基本的な身体的欲求が持続的に無視されたり、一次的な世話人がくり返し変わったりすることにより、安定した愛着形成が阻害されることが原因とされています。そして、抑制型と脱抑制型があり、前者は自閉症スペクトラム (ASD) に、後者は ADHD に類似していることを話されました。そして、この子どもたちへの支援としては、保護者や本人へのカウンセリング・ストレスマネジメント・ソーシャルスキルトレーニング (SST)・個人攻撃の罠に陥らない支援・包括的対応などが大切であるとともに、障がい特性を考慮しつつ他の子どもたち同様に、ルールに従い対処することが大切だと話されました。

ASD の子どもたちによく見られる特性の一つに、周りが予測できない行動をとることがあります。伊丹先生から次の様な例を話して頂きました。ひとりの子が前に来て、「いつ死ぬの」と聞きました。この子は「白髪→老人→死」と考えて、伊丹先生の事を心配していたのです。それに対して、「ありがとう。これからもまだ生きるで」と言うと、ニコッと笑ったということです。また、ADHD の子どもたちに対するほめ方としては、目立たないときこそ誉める (人前でなくマンツーマンで、





その子にあわせて誉める)・すぐに誉める、まめに誉める・目に見える具体的なごほうびの使用(ジェスチャー・はなまる・シール等)が有効ということでした。特に誉めるのはその事があって60秒以内という即時強化がとても有効であると言われました。

注意の仕方として、「廊下は走らない→廊下は静かに歩こう」・「けんかはしない→言葉で伝えよう」などと、否定的ではなく肯定的な言い方をします。また、「短くはっきりとした話し方」・「どう行動して欲しいか分かるように伝える(感情に訴えるより理屈で説明する方が理解しやすい)」・「一般論で話す方が受け入れやすい」・「行動は修正するが人格は否定しない」ということです。また、傾聴・受容・共感というカウンセリングマインドを大切にすることも話されました。

子どもの行動を理解する方法として、『行動の3分割』ということをお話されました。それは、「行動の手がかりやきっかけ」→「子どもの行動」→「行動の後の対応や結果」を、事実にして分析し対応することから、子ども理解がはじまり支援者としての対応を考える事ができます。

最後に、どんな時に子どもたちが変わったかということについて、幾つか示されました。①家族のありがたみ、苦しみが分かったとき。②将来の目標が決まったとき。③信用できる人に出会えたとき④人と話す自身がついたとき。⑤勉強が分かったとき。⑥大切な役を任された(認めてもらった)とき。⑦物事に集中できるようになったとき。⑧最後まで諦めずにやろうと思ったとき。これらすべてに共通するのは自己評価の高まりです。また、何ができるかということだけでなく、どんなやりとりのができるかが大切です。そのための環境を整えることも大切です。

2時間近いお話を、自分たちの目の前にいる子どもたちを思いうかべながらだと思いますが、参加された方たちは頷いたり考え込んだりしながら、聴いておられました。感想の中にも、2学期、新しい気持ちで子どもたちに接しますということを書いている方もおられました。

分科会

「教育相談の極意(演習)」

講師 伊丹 昌一氏

相談を受けるときには、①この人は何を拒絶しているんだろう。②この人は何をわかってほしいんだろう。③この人は何を妄信しているんだろう。④この人は本当はだれと闘っているんだろう。⑤(①～④の)「考え方の偏り」を探ること。⑥そして、その偏りの多くが子供のころに作られる。ということに沿ったお話と演習でした。

教育相談の分類と対応は、①具体的な子育てに関わるコンサルテーション的なもの。→自信を持って毅然と話し明確にアドバイスする。②保護者自身の悩みに関わるカウンセリング的なもの。→保護者の状況や意向を理解し受容し、自主的に問題解決ができるように援助していく。③虐待などのように福祉的立場から指導を行うガイダンス的なもの。→子どもの最善の利益を考慮し、地域の



関係機関と連携・協力して行う。④学校園の保育・教育内容や管理運営にかかわる抗議・要望・クレームへの対応。→直接的な教育の責任者として、保護者への説明責任を果たすことが基本であり、誤解のままに放置しないことと、学校園として基本的なマニュアルを作成して対応する。

保護者と関わる時の基本的な姿勢としては、①受容的・共感的な態度で、こころを傾けて保護者の話を傾聴する。②「話を受け止めよう、理解しよう」という姿勢から、相互の信頼関係が形成され、保護者の理解や協力が得られるようになる。これがなければ教育相談は成立しない。ということの大切さを話されました。

その後、参加者がお互いにペアになり、相手の話を聴くという演習を行いました。その際、相手との距離感・座り方・非言語的メッセージの共有を行うことや、相手の話の中の言葉を使って共感的な気持ちを返す（～だから、〇〇ですね）ことの大切さを話されました。最初はぎこちなかった参加者も時間がたつにつれて、傾聴してくれる人がいることで話が弾むようになっていきました。

その後、保護者と教師が共通の基盤に立って子どもの現状を受け止め、共通理解のためのアセスメントを行うことや、発達障がいの子どもの保護者支援についてのアドバイスをいただきました。

さらに、様々なタイプの「気になる保護者」に対しての具体的な支援についても話されました。

虐待をしている保護者への支援は、子育ての難しさや家庭内の種々の課題に悩んでいることが多いので、受容的な態度で悩みを聴き共感し、信頼関係を作ることが大切であるとともに、各種相談機関との連携が必要であり、保護者対応ではなく保護者支援という観点からの取り組みが大切であると言われました。

最も大事なことは、「何ができなくても、何を言っても、何をしても、『あなたは愛されている』のメッセージを送り続けること」です。そして最後に、「親が笑っていなければ子どもは笑えない。

笑うことにより自分を受け入れることができる」

「すべては子どもたちの笑顔のために」という言葉で、お話を終えられましたが、その際に、教師にも笑顔が必要ということをつけ加えられました。



教材制作研修

象の会 朝井 翔二氏、松永 榮一氏、内藤 壽氏

昨夏、60周年記念大会を開き、実技研修を行わなかったところ、多くの方から、「来年はお願いします」という要望がありました。そこで今年の開催をお願いしたところ、象の会の方は、いったん辞退されました。それは次のような理由によるものでした。





- ①現場から離れて長くなり、提供できる教材が適切かどうか判断しにくい。
- ②特別支援教育の時代になり、対象となる子どもたちが広がり、そのニーズが把握しにくい。
- ③3人とも老齢で作るものの準備が大変に感じるようになった。

しかし、会員の方から「ぜひ！」という強い要望があると何度もお願いしたところ、無理なお願いを聴き入れてい

ただき、最後の1回、ということで今回の研修を行って下さいました。今まで十数年の長きにわたり、私たちに教材作りを熱心に教えていただいたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、3人の方は、例年にも増して下ごしらえ・準備など念入りにご用意されて当日に臨まれました。参加された方の感謝感激のうちに教材制作が行なわれ、「今回は最後は惜しい！」という声が多くありました。

今まで、さまざまな手作りの教材が子どもたちに感動を与えてきました。そして、子どもたち自身が物を作る体験につながったこともあります。もの作りは、素晴らしい体験・感動を子どもたちだけでなく私たち教職員にも与えてくれました。

これから、象の会の方に「教えてもらう」のではなく、今まで学んだことを「受け継ぎ」、新たに「創る」ことができるように、私達みんなが励んでいかねばならないと思います。そして3氏の思いを受け継ぎ発展させていくことをめざしましょう。

夏休みが短くなるなど、もの作りにじっくり取り組みにくくなっている、という声もありました。しかし、「ものを作る」経験、手作りだからこそ生まれる感動、これらは、いつの時代になっても価値のあるものだと思います。

あらためて象の会の皆様に感謝の意を表します。有難うございました。



2013年 夏季研修会 **参加された方のアンケートから**

大阪府支援教育研究会 2013年8月5日 たかつガーデン

全体会

「愛着に課題のある子の理解と支援」 伊丹 昌一氏

講座の感想など

- ・「困っていることに気付けば即支援」をする為には、まずその子の困り感に気付ける知識を持つこと。子どものわがままと片付けられたり、診断の有無で判断したりしている職場の人たちにもこの講座を聞いてほしかったです。伊丹先生から活力を頂いたので、少し勇気を持って伝えていきたいと思います。もっと聞きたかったです。ユーモアたっぷりのお話、楽しかったです。
- ・とても勉強になりました。いつも思っていたのは、愛着障がいの子は発達障がいの子に比べて同じ「障がい」と名がつくわりに支援されていない（環境がない、放置？）と思っていました。今日のお話を聞いて、「困っている子に支援」という言葉でなるほど！と思いました。支援学級の在り方を今後変えていこうと思います。在籍児のための支援学級ではなく困っている子のための支援学級だと。
- ・今日はありがとうございました。伊丹先生のお話をもっと聞いていたいと思う程、全てすっと頭に入ってきました。今、支援学級担任ですが、支援を必要とする子は在籍の子だけじゃなく通常学級にもたくさんいて、私たち教師は全員、困っている子の理解と支援方法を勉強するべきだと改めて思いました。最後に先生がおっしゃったように、全ての子どもが大人になったとき、楽しい自立生活が送れるように今の小学校教育があるのだと思って、そういう視点で教育していきたいと思います。
- ・とても具体的にお話して下さい、これから使えそうでした。ただ、学校の中では時間の制限があり、できるまで待つてあげることがなかなかできないのが残念です。けれどその中でも自己評価を高めていける支援をしていこうと気持ちを新たにしました。ありがとうございました。
- ・伊丹先生のお話はいつも具体的でわかりやすく、力を抜きつつ核心に迫っているので、うなずきつつ子どもの顔を思い出しつつ聞かせて頂きました。これからも機会ある毎にお話しお聞きしたいです。
- ・いつもながら楽しく、よく分かる講演ありがとうございました。私も今、愛着についてとても気になっているので、とても勉強になりました。

- ・元気づけていただきました。事例もそうでしたし、具体的にどんなときにどうとらえればいいのか「きっかけ」「行動」「結果」など、自分のこれまでの視点や考え、指導を見直す、改めさせられるお話でした。また、どこかの機会にお話聞かせていただきたいと思いました。子どもの前で、笑顔で笑顔を引き出す、真逆を即答する、肝に銘じておきます。
- ・本当によくわかる話でした。自分が前に学んだカウンセリングスキルをしっかりと思い起こし、使っていきたいと思います。
- ・発達障がい児の日々の支援には本当に私自身も悩み悩み、どうしても結果を求めた支援をしてしまいがちです。でも、結果を求めてはダメ！先生自分自身を責めないで！リラックス！という伊丹先生の言葉に改めて納得し、少し張っていた気持ちが楽になりました。支援者の目指す方向、指導の仕方をどう変えるという具体的な事例が提示され、とても分かりやすかったです。2学期からチャレンジして、他の先生方にも伝えていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・客観的な事例で、行動を考えていくこと、そこに基づいて保護者に伝えること、ずっしりと私の心に刻み込まれました。主観が入りすぎている自分にはっとさせられました。
- ・近頃、カウンセラーの先生に相談しても「反応性愛着障がい」といわれることがとて多くなりました。学校内でケース会議を持つ子にもこのタイプの子が多くて頭を悩ませていました。今日の話聞いて参考にできそうなこともたくさんあったので、校内の他の教師にも話していこうと思います。ありがとうございました。
- ・笑いを交えてリラクゼーション。よく分かりました。1件、通告義務を果たせてない件を思い出しました。通告する勇気！！
- ・おもしろかったです。時折、写真が入っていてリラックスできました。叱り方、むずかしいですね。肯定的に叱る、いつも否定的になってしまっているのも、実践を重ね、がんばります。
- ・愛着に課題を抱えた子の親にどういう方法で「愛を注いでください」伝えることばかり考えていました。伊丹先生のお話を聞いて、教師はそれだけでなく、教師の役割を見つめ直すことができました。ありがとうございました。
- ・施設があり、ネグレクト虐待の子も通う小学校にいます。ここで初めて愛着障がいという言葉聞き、何だろう？とっていました。その子たちが反抗して、まわりの子どもたちがびくびくしている時もあるように思います。担任ではないので、どのように接すればよいのかと遠くからいつも考えていました。うちの学校の先生みんなが聞いたかったと思うであろう内容でした。また私のもっている子に通じる話も多くありました。
- ・お人柄が出た、とてもよく理解できる内容でした。何度聞かせていただいても新鮮です。
- ・具体的な手法も多く、何より聞いていてやる気と元気が出て「2学期こんなことをしてみよう」といろいろアイデアが出てきました。たくさん考えました。

- ・現場でもすぐに実践できそうなことも多く、生徒の顔を思いうかべて、〇〇さんはこんなふうに声かけをしようとか、次やっていくことが目の前に浮かんできます。支援学級をもって2年目なのでまだまだ学ぶことがたくさんあり、今やるべきこともわからない状態ですが、お話を聞いて少しずつがんばれそうです。ありがとうございました。
- ・私の学校でも愛着障がいだといわれる生徒が何人かいます。注意するときはいつ否定的になります。肯定的に注意をするようにという事なので、少し練習しておかなければと思いました。
- ・色々な対処法、支援法を聞くことができ、2時間があっという間でした。今や生徒指導というより支援、その通りだなと感じます。生徒指導部との連携を、と思っているので、とてもわかりやすいお話でした。日頃から肯定的な注意を心がけてはいるのですが、次第に感情的になり否定的な言葉を使ってしまっています。今回改めて日頃の子どもの関わり方を反省すると共に2学期からは今回のお話を活かした関わり方ができたらと思います。
- ・伊丹先生のお話を7年ぶりに聞きました。当時は大学を出たばかりで右も左もわからない時でしたが、時が経ち、そうそう！！と思えることばかり。そして今、先生から聞いて実践していることを他の先生に伝える立場にいます。「自分のせいにはいけない」「障がいを理由にしない」など、もっと適切に伝えないと・・・と思いました。
- ・楽しい講義でしたが、子どもたちに向き合うヒントをたくさんいただくことができました。ありがとうございました。
- ・支援は、障がいの有無ではなく、子どもが支援を必要としていることが特別支援であるということが深く残りました。これからはイラッとしても全否定を全肯定で返していこうと思います。
- ・子どもからの暴言に心が折れそうになることもあった1学期でしたが、自分の言葉かけに未熟さがあつたことを知り、2学期からは笑顔と肯定的な言葉かけ返しで子どもと接していきたいなあと思いました。ありがとうございました。
- ・私が担任する子どもの中にも虐待のケースがあり、今日お話して下さった事がとても参考になりました。特に保護者対応については、自分の経験の中で、そうだなと納得できるお話で、自分自身の役割についても再認識できて良かったです。
- ・昨年度、愛着に課題があつたような生徒を受け持ったので、昨年度の振り返りをしながら聞くことができました。ABAの話はこれからもっと活用できるようにしたいです。最後のスライドで出てきた「どんなときに少年たちは変わったか？」で、自分のクラスのこの生徒に置き換えたときに結構当てはまる事が多くて、この生徒も相当変わって卒業していったのだなあと思いました。
- ・講演を聞いている時にも「否定的な言葉使っているな」とか「なんで広い心が持てないんだろう」とか、ついつい自分を攻撃してしまっているようです。支援する側が余裕を持ってニコニコ笑顔で支援できるよう、鏡を見て頑張りたいと思います。

分科会

「教育相談の極意（演習）」伊丹 昌一氏

講座の感想など

- ・ 午前から続いて聴いたので、とても分かりやすかった。教育相談は、子どもの支援のあり方を見極め課題を達成するのに非常に重要なことなので、お話しは全てとても参考になった。悩める親を支えることで、その家族・子どもに笑顔を取り戻すことができるのは、すばらしいことだと思った。これからも勉強を続け、役に立つ教師になっていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 教育相談についての研修をはじめて受けさせていただきました。相手の方に寄り添って気持ちを共有し笑顔で接する（悩み・怒りの時は別ですが…）ことの大切さを実感しました。今日のお話で、保護者の方の心がほぐれることで子どもたちが笑顔になっていく様子を思い浮かべることができました。少しでもできるようになりたいと思います。
- ・ とても楽しい研修でした。睡魔のない研修は久々です。教育相談の練習を疲れないう程度にがんばります。
- ・ 懇談などで保護者から相談されることがありますが、「自分はまだ若いし結婚もしていないし、何もよう言わんわ」と思うことも多々ありました。しかし、言わないといけないことは、きちんと伝えなければならないし、共感もするときはしていけないといけないんだという気になれました。ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。支援学級担任です。懇談会では受けもっている子どもも少ないということで、子ども一人1時間の予定を組んでいます。うまく話を切れないと1時間30分ということもあります。ほとんどお母さんの話を聞いて終わっています。が、まあいいか!!といつも思っています。この事が良いのか悪いのか?今日の話を参考にし、これからの対応に生かして頂きたいと思いました。
- ・ 最近保護者対応をする中で困ることがあるが、伊丹先生の講演はそれをびったり解決出来るだろうお話でした。いろいろな保護者の型分けにより、こちらの対応も変わっていかなければいけないこと、カウンセリングは教師だからできることもあるということを知ったように思います。新しい視点で新鮮な気持ちで研修ができました。ありがとうございました。
- ・ 正直、少し、初任の私には難しいと思いました。でもこれから練習は重ねたいと思います。困っている保護者はたくさんいて、その保護者の声を心から受け止め、内面に迫っていける教師になりたいと思います。今日は本当に、楽しく学ぶことができました。

- ・ 私自身、今悩んでいることに前向きに取り組んでいこうという気持ちになったこと、そして、その具体的な方策を教えてもらえて大変有意義でした。先生方同士の教育相談の練習は、その話の内容に共感できることばかりだったので、意識しないと先生が教えて下さったことを取り入れることは難しかったです。現実の中で…意識してやっていきます。時間があつというまにすぎて、びっくりしています。
- ・ 分かりやすい内容で教育相談に対する認識をさらに強めることになった。子どもだけではなく、保護者に寄り添う術、大切さを強く感じる事ができたことは良かった。二学期から保護者との教育相談が増えてくるので活かしていきたいと思う。
- ・ 午前もそうだったのですが、伊丹先生のお話はずっときいていたいと思うくらい魅力的なものでした。私自身、今、二人の子育てをされていて、教師という職業をしながら、わが子の子育てにも自信が持てず悩んでいる日々です。最後の「全ては子どもたちの笑顔のために」のところで、そういえば、子どもに「ママ、怒らんといて」と日々言われてるなと思い（反省）、涙が出そうになりました。自分自身にカウンセリングマインドを持って向き合いたいと思います。今日は、母としても勉強になりました。
- ・ ひたすら、むずかし〜いと感じました。ここまで保護者支援ができれば、すごい！！と思います。がんばって勉強してみます。
- ・ 具体的な方策を教えていただけで良かったです。保護者のタイプ別で対応の方法を変えることが分かり勉強になりました。
- ・ 向き合う子どもたちであっても、支えるのは子どもたちと保護者であることを確認しました。保護者を支えることが、子どもたちにとっても大切であることは分かっている、なかなか否定的なことばかりを伝えるが多かった自分を見直すことができました。また、出来ることと出来ないことをはっきりさせる、自分を大切にすることも今の自分を勇気づけることが出来て良かったです。
- ・ 今年度、初めて支援担をすることになりました。今日、先生のお話をうかがって、保護者との話、少し自信を持ってできるような気がします。これは支援の保護者だけでなく、すべての方に対応出来ることなので、これからも勉強していきたいと思いました。
- ・ ユーモアを交えたお話、とっても役に立ちました。親と共に向き合って共通理解することが大切だということを改めて感じました。教育相談を苦手にせず、子どもたちのために力をつけていきたいなあと思います。
- ・ 難しい講演でした。いざ保護者を前にすると、ズバツと言うべきことがなかなか言えない。保護者が障がいをもっておられたら、精神的な病気をもっておられたら、その他の家族の人に援助してもらえない等、うまくいかないケースが多いです。
- ・ 教育相談というむずかしい（私にとって）分野でしたが、演習も含め、とてもいねいに教えて頂き有意義でした。笑顔を忘れず傾聴・受容・共感を大切にがんばろうと思いました。

- 他の先生方とお話しして、きいてもらって、きいて、とても心が軽くなりました。同じように共感してもらえるのは、ありがたいですね。臨床心理、ちょっと興味がありましたが、独学でもいいから学んでみたらという言葉に、やってみようかなと前向きに思いました。「笑顔」つついなくなりますが、意識したいと思います。
- 人の話を聞いてうなづくことはできたのですが、同じように動くことや、相手の気持ちを繰り返し言うことは難しいなと感じました。いつも話を聞くときに考えていなかったことをたくさん教えていただいたので、全部はできないけれど、一つずつ実践してみようと思いました。
- 実際の演習がとても勉強になりました。自分が相手の気持ちに寄り添えているのか、それを相手に伝えられているのか、考えながらしました。とても難しく、初めて会った方と話し合うのも苦手ですが、このような場で経験し、練習させていただいたことは有難いです。
- 伊丹先生の話は初めて聞きましたが、とても良かった。カウンセリングの具体的なやり方、マインド等とても参考になった。もっと聞きたい。
- 教育相談の極意について、詳しく話して頂きました。しかし学校現場の中での体制作りという大きな課題が残されているなあと感じました。学校の教師が、どこまで関わっていけばいいのか日々悩んでおりますが、少しでも親御さんの気持ちに寄り添い、共に解決に向けて話していければとおもいます。ありがとうございました。
- カウンセリングについては感情を繰り返すなど、実践してみると難しい事ばかりでしたが、たくさん事を学べました。ありがとうございました。
- 保護者の支援は、経験年数の浅い自分にとってはとても難しいと感じましたが、経験を積み重ねて、しっかりと傾聴できるようになりたいと思いました。
- 保護者対応（＝支援）の際のいろいろな話や実習、もっともっと実習をやってみたいと思います。パターンがいくつもあって難しそうですが、分かっていきたいと思いました。
- 保護者の対応はとてもむずかしいです。色々な方がおられるので、その事を理解することから進めていくということが、大事だと分かりました。
- 午後の教育相談については、以前にもうかがった内容と重なる部分もありましたが、保護者のタイプ別の支援の仕方についての部分が新しく盛り込まれていたので、分かりやすかったと思います。現場で他の先生方へも伝えて、学校全体で教育相談のレベルアップを勧めていきたいです。
- かなり専門的な内容ではあったが、分かりやすく説明いただきよく理解出来た。しかし難しいですね。なかなか親の心を取り込めないです。
- 教育相談の極意、保護者のタイプ別の対応について、大変参考になりました。特に保護者のタイプ別の対応については、勤務校の課題として取りあげられることが多いので、早速校内で今日のお話の内容を共有したいです。

- ・ 一番印象に残ったことは、「あなたは愛されている」、これを与えるのが教師の役割というものです。子どもにも、保護者にもこんなメッセージを發せていけたらなあと思います。話を聴くのは難しいですね。練習を積んでいきたいと思います。
- ・ 演習はすごく身につけてためになりました。ありがとうございました。また、次も伊丹先生のお話を聞きたいです。来年もよろしくお願ひします。
- ・ 午前午後の話、とても勇気づけていただきました。子どもが、保護者が、教師が笑顔になれるような教師になりたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 聴き方演習良かったです。傾聴することの難しさを痛感しました。伊丹先生の話をもとに保護者の話を聴いて。かなりの練習が必要ですが。

教材製作研修

象の会 朝井 翔二氏、松永 榮一氏、内藤 壽氏

感想など

- ・ 至れり尽くせりで材料を準備して頂いて、素敵な教材を作ることが出来ました。本を見るだけでは完成できなかったと思います。2学期に子どもたちに見せるのが楽しみです。ありがとうございました。(パタパタ、扇なかぶ)
- ・ 楽しみながらできました。でも、すごく難しかったです。ていねいに教えて下さってありがとうございました。本ではできないと思いました。(ぱたぱた、扇なかぶ)
- ・ 象の会の皆様ありがとうございました。ていねいに教えていただきました。机間支援のありがたさ。難しいところもありましたが両隣が励ましてくれました。ありがとうございました。両面テープのゴミが多く、入り口で教材の持ち帰りに用にと頂いた袋をゴミ袋として机にはりつけました。ゴミ回収、クリップ回収を先生方(役員)にさせるのは違うと思います。子どもにも自分で片付けるようにと普段言っているので持ち帰らせても良いのでは？(数字の歌、扇なかぶ)
- ・ とっても楽しくできました。ちゃんと話を聞いているつもりでも間違えたりして、生徒の気持ちも少しわかったりしました。完成品はあまり上手ではなかったけど自分がつくったものだと愛着がわきます。ありがとうございました。(パタパタ、扇なかぶ)
- ・ ありがとうございました。かわいい絵と素晴らしい教材。若干苦しみながらの製作ですが楽しくやらしていただきました。(パタパタ、扇なかぶ)

- ・ 絵図と口頭でとても分かりやすく説明してくださるのに、いざ作っていると聞いた通りにできていない。それでも分かるように根気強く聞けば即対応してくださって感謝、感謝です。(パタパタ、いないいないバー)
- ・ 今日、楽しく作業しながら、教材作りができとてもよかったです。ご親切、丁寧に指導していただきまして本当にありがとうございました。2学期に子どもたちの反応が楽しみです。(かんたん魚釣り、鬼やらい)
- ・ 一つずついねいに教えていただいたので私にもできました。絵のすばらしさにもいつも感動しています。たくさん用意して下さってうれしかったです。(パタパタ)
- ・ むずかしいところをすべてやって下さっていたので、ありがたかったです。いろんな場面で使えそうで楽しみです。アフターケアまでありがとうございました。(鬼やらい)
- ・ 2学期からすぐに使える教材を作ることができ、とても充実した研修となりました。ありがとうございました。(数字の歌、鬼やらい)
- ・ 声を録音して再生できる機能がほしくて参加しました。こんな立派な物を頂けるなんて数字の歌でも鬼やらいでもいろいろな使い方の想像でき、日常で使うのが楽しみになりました。(数字の歌、鬼やらい)
- ・ 是非作りたと思って参加、ついに作ることができて満足です。子どもが「えっ!?なんで?」という顔をして見そうで、今から楽しみです。今年で最後。残念だけれどこれからもいっぱいおもちゃ教材を作っていきます。(数字の歌、鬼やらい)
- ・ 毎年この教材製作の研修をとっても楽しみにしていました。象の会の先生方が作ってこられた教材は子ども達の宝ものになります。それを広くこのような形で紹介して頂けることにとても感謝しています。今後もよりたくさんの先生に伝え広めていただけることを強く望みます。鬼やらいは数年前のこの会で実物を見せていただいたように記憶しています。そのときもすごいと思っていました。簡単な作業だけで仕上がるように配慮していただき事前の準備をたくさんして頂きありがとうございました。(鬼やらい)
- ・ 水道管カバーは子どもたちが振り回しても危なくなくいい素材だと思いました。講師の先生方の素材の使い方、見つけ方はすばらしいと思います。参考になりました。
- ・ 自分で基盤をうまく作れないので助かりました。いろんな声を録音できるのでいろいろ楽しめそうです。(かんたん魚釣り、鬼やらい)

夏季研修会 運営等についてのアンケート

(ありがとうございました、勉強になりました、役員の皆様お疲れ様、
など同じような意見が多くありました。主なもののみ掲載しています)

研修会の運営について

- ・ ネットでの参加申し込み、大変スムーズでした。すぐに返信いただき安心できました。
- ・ 伊丹先生のお話が聞けてとても良かったです。支援関係の先生だけでなく通常学級の先生方にも聞ける機会を作ってほしいと思いました。
- ・ 数に限りがあったのでひやひやしました。
- ・ 申し込みのHPが黒い。怖い。裏サイトのよう。改善求む。
- ・ 私のミスで返信メールが届かなかったのに、すぐに学校にFAXしていただいたこと感謝しています。
- ・ 府の支援研は、毎回参加したいと思っていますが、市との研修が重なると…その辺の調整は難しいでしょうか？
- ・ 分科会、もう少し定員を増やせないですか？適正規模だとは思いますが、受けられない人もいたらしいので。
- ・ スムーズに運営されていて良いと思います。
- ・ 先に来られた方の席とりはどうかと思いました。
- ・ 午前、午後、共に良かったです。
- ・ 参加を申し込んだが人数オーバーで断られた友人がいたので残念でした。もう少し増やしてほしい。
- ・ 参加申し込みはFAXも可能にして頂けたら助かります。
- ・ 伊丹先生のお話がとても参考になりました。申し込みが速かったので希望通りのコースになりました。
- ・ ホームページが暗い。参加申し込みがネット、ホームページのみで止まる人がいた。
- ・ 教材もの作りは時間がかかりますが、とっても支援学校の子どもたちには有効です。今後も今日みたいに高められれば良いなと思います。
- ・ 今日は午前中に勤務校の研修がありましたので、午後のみ参加可というのはとてもありがたかったです。

これからの研修会についての希望など

- ・ 今回のような研修会を是非またお願いします。夏といわず、年3～4回。
- ・ 竹田契一先生や小田浩伸先生の話をお聴きしたいです。
- ・ WISC-IVの検査はこれからできなくなるかもしれませんが、結果から分かること、よみ方を学べる機会がほしいです。
- ・ 中尾しげき先生、伊丹昌一先生のお話を聞きたい。
- ・ 境界性人格障がいのある子どもへの支援について焦点をあてた研修会を希望します。
(京都の岡田尊司先生等を講師として)
- ・ また伊丹先生のお話を。(何枚かありました)
- ・ 事例を交えた研修会、今回のような実技研修(複数)
- ・ 最新情報(特別支援教育)が得られるもの
- ・ 発達検査(WISC-IV)やABAについての研修
- ・ 小、中、だけでなく高～大学、社会人になってからの大人の発達障がいの例も聞くことができれば。
- ・ SSTの具体的な指導方法、事例をあげて。
- ・ 関西国際大の中尾先生
- ・ 京都大学医学部附属病院船曳康子先生
「発達障害者の特性別適応評価用チャートの開発」
- ・ 今日のような実技研を毎年してほしいです。
- ・ 音楽療法、ウクレレ、ドッグセラピーの活用
- ・ 教材づくりや紹介など
- ・ WISC-IVの紹介や基本的なプロフィールの見方、教材作りの研修

2013 年度 行事部主催 施設見学研修会 報告
～株式会社 ダイキンサンライズ摂津～

2013.8.22 (木) 14:00～16:30

今年度は、ダイキン工業の特例子会社である『(株) ダイキンサンライズ摂津』を見学させていただきました。大企業には、特例子会社を設立しておられるところが多々ありますが、ダイキンサンライズ摂津では、精神障がい者の方の雇用にも力を入れているという印象を受けました。

当日は、会社概要の説明、会社紹介のビデオを見た後、実際に職場を見学させていただきました。施設はもちろん、それぞれの作業でも社員の方の障がい特性に応じた働きやすい環境づくりをしていることがよくわかりました。その後、顧問の應武氏より仕事内容や採用後の育成、学校現場に期待すること等を丁寧かつ具体的に説明していただきました。2 時間半の時間では足りないくらいとても充実した見学会となりました。

1. 会社概要

設立 1993 年 5 月 (大阪府、摂津市、ダイキン工業、グループ会社が出資している第 3 セクター方式)

従業員 精神障がい 22 名、知的障がい 20 名、視覚障がい 1 名、聴覚障がい 30 名、
身体障がい 29 名、健常者 14 名 (府内中心に電車、自家用車等で通勤)

基本方針

- ・自らの努力と相互協力により、経済的自立を目指す。
- ・生産活動を通じて自らの成長と社会貢献を目指す。
- ・社員、家族、地域にとって誇れる企業を目指す。



特徴

- ・障がい者が主役の会社
作業方法の改善、良好な人間関係、
社員の能力アップ
- ・活発な地域への社会貢献活動



業務内容 100%ダイキン工業及び関係会社から受注

1. 空調部門 (エアコンなど)
2. 化学事業部 (フッ素化学品)
3. 油機事業部 (油圧機器など)
4. 特機事業部 (医療機器など)

雇用管理

- ・採用前に実習制度を利用。(支援学校、就業生活支援センター、訓練施設など)
- ・採用のポイント
 - ◎自力通勤
 - ◎簡単な読み書き
 - ◎体力 (毎日出勤できること)
 - ◎協調性・意欲
 - ◎競争意識 (就職活動は競争の始まり)
- ・採用後の育成の基本姿勢
 - ◎社員一人ひとりのできないことよりできることに目を向ける。
 - ◎人の能力は無限である。
- ・配属は実習やトライアル雇用期間中の状況により決定

2. 施設見学

会社として、『どの作業者でも間違えずに作業できる工夫』があらゆるところで見られました。障がい特性に応じた作業方法や職場環境を改善した点なども教えていただきました。 (合格表示ランプ)

☆工夫されていたところ (他にもたくさんありました！)

- ・作った製品が正確に作動するかどうかの組立検査装置では、音声信号だけでなく、聴覚障がい者でもわかるように、合格表示ランプが点滅する。
- ・作業する人に合った高さの作業台を使用。(車いすの方は低い作業台、立って作業の方は高い作業台…など)
- ・組立作業では、部品をすべてそろえてから行う。
(部品の付け忘れがないようにするため)
- ・梱包し忘れないように、チェックリストを活用。
- ・エアコンの付属品の袋詰めでは、たくさんある棚から、ランプが点灯した個所の部品を順次とり、入れていく。
- ・説明書や作業方法などの紙にはバーコードをつけ、袋に正しく入れるために、バーコードを読み込む機械を使ってチェックしてから行う。
- ・聴覚障がい者がトイレにいても緊急避難ができるように避難指示用フラッシュライトをトイレに設置。
- ・廊下には通路ガイドラインがあり、弱視の人もガイドラインに沿って歩行可能。



3. 質疑応答

Q、障がいがある方に、どのように作業内容を指導しているのか？

A、一つひとつ理解ができてから次のことを教えている。(一度にすべてを言うことはない)

作業を3回ほど見せるとできる人もいる。一人ひとりに合った方法で指導している。

(「物を出荷するとき、曜日ごとに色を変える。」「部品が5個入る箱を用意して使用する。」などの工夫もあり)

できないのは、指示の仕方が悪い。わかりやすい指示を常に考えている。

Q、退職者数は年平均2.9人とあるが、どのような理由で退職するのか？

A、『聴覚障がい者で社会や会社など集団での役割分担がよくわからず、不満を抱いて退職』『精神障がいですんどくなる』『身体障がいです座って仕事をすることができなくなる』・・・などが過去にあった。

Q、研修期間はどのくらい？

A、実習として1週間～2週間

委託訓練として2か月ほど行うときもある。

入社となるとその日からフルタイムで働くので、研修などはない。

Q、従業員の方が、仕事のときにお互いのコミュニケーションをとるために工夫していることは？

A、作業は流れを決めて行っているので、コミュニケーションを取らなくてもいい。

Q、一人での作業はモチベーションを保つ面でしんどいと思うが、工夫していることは？

A、一人の方を好む人もいる。一緒に物を運ぶ時などの一部の作業を除き、流れ作業であっても一つひとつの部品を取り付ける作業はひとりが基本。

Q、ダイキンサンライズ摂津ができたことで、親会社の人にとってよかったことは？

A、ダイキン工業の新入社員に見学してもらっている。見学した人は、「障がい者に対するイメージが変わった。」「ここへきて、教えてもらった。」「人として障がい者を見ることができるようになった。」等、いい感想を持つようになった。

Q、ダイキンサンライズに入社するには？

A、本人の働きたいという気持ちが一番大切。

支援学校の例だと、実習を通してその生徒のいい所や課題を見極め、実習後にどう学校で訓練していくかを考えてもらっている。(実習のとき、顔だけ見せて帰っていく先生は困る。しっかりと担当者と意見交換してほしい。)

4. 参加者の感想～一部抜粋～

- ・小中学校でもキャリア教育に取り組んでいますが、支援学級でも将来就職できるのかと保護者に聞かれるので、自信を持って答えられる気がします。稼ぐと生きがい、誇りの両立素晴らしかったです。
- ・それぞれの特性を生かして職場について黙々と頑張っている姿を見れて良かったです。就職するための徳育、知育、体育の項目がとても参考になりました。基礎基本の部分をこれから学校でも取り組んでいきたいです。
- ・施設環境等、ハード面が素晴らしい事はもちろんですが、働く人たちの間にチームワークやつながりが感じられることが貴社の一番の企業力であると感じました。
- ・施設内には至る所に誰もが働きやすいシステムや作業スペース、方法等、工夫がたくさんあり、驚きました。指示やシステムを工夫することで皆さんが作業できるように取り組まれているところがすごいと思います。今、指導している子どもたちの将来は心配な面もありますが、基本的な生活習慣や集中力など将来就労する上で大切になっていることを学校でしっかり身につけさせる必要があると改めて思いました。
- ・働く人たちにとって「障がい」となるものがどこにあるのか、どうすれば「障がい」がなくなるのかという視点で、仕事を見直し工夫されている点が勉強になりました。一人ひとりが意欲を持ち、集中して仕事をしている姿が印象的でした。働くために必要な力は、すべての子どもたちに必要なことであると思います。
- ・保護者と話をすると必ず卒業後の就労が話題になります。実際に障がいのある人を受け入れている企業を見学し、企業の方の話は大変参考になり、2学期以降は将来を見据えた指導、支援に役立てたいと思いました。
- ・行政や企業がビジョンを持って障がい者雇用に力を入れることの大切さを学びました。やはり障がいがあっても働くことの喜びと誇りを持って人生を送らせたいと思います。

平成25年9月10日

各 学 校 長 様
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会
会 長 中 島 智 子
(松原市立河合小学校校長)

冬 季 研 修 会 の ご 案 内 (一次案内)

大阪府支援教育研究会主催で、以下の要項で冬季研修会を実施いたします。
現在、講座の内容・講師等についての検討をすすめております。
詳しい内容および申し込み方法については、後日、二次案内でお知らせいたします。
ふるってご参加ください。

記

- (1) 日 時 平成26年(2014年) 1月25日(土)
午前10時30分～午後4時 (10時10分 受付開始)
全体会(10時30分～12時30分)
分科会(午後2時～4時)
- (2) 場 所 大阪府教育センター TEL 06-6922-1882
〒558-0011 大阪市住吉区菟田4-13-23
地下鉄御堂筋線 あびこ 東北東 約700m
JR阪和線 我孫子町 東 約1400m
近鉄南大阪線 矢田 西南西 約1700m
- (3) 内 容 午前は全体会として講演を予定しています。
午後は、いくつかのテーマ別講座を実施いたします。
詳しい内容は二次案内(11月下旬発行予定)でお知らせします。
- (4) 申し込み方法
同じく、二次案内でお知らせいたします。
大支援研のHPおよびニュースをご参照ください。
<http://daishienken.visithp.com/>
- (5) 問い合わせ先 大阪府支援教育研究会 書記(研修部担当) 佐藤正幸
摂津市立第四中学校 TEL 06-6349-6181
FAX 06-6349-6184